

平成23年 4月23日現在

研究種目：基盤研究 (B)  
 研究期間：2007～2011  
 課題番号：20310103  
 研究課題名 (和文) アムールプレート日本縁辺の地震発生帯に関する構造地質学的研究  
 研究課題名 (英文) Structural-Geological study on the seismogenic zone  
 along the Japan Margin of Amur Plate  
 研究代表者 竹内 章  
 (Akita TAKEUCHI)  
 富山大学・大学院理工学研究部 (理学)・教授  
 研究者番号：20126494

研究分野：自然災害科学  
 科研費の分科・細目：地質学  
 キーワード：地質学、地震、津波、防災、海洋探査、広域応力場、ひずみ集中帯、地体構造

## 1. 研究計画の概要

地質構造の枠組みをなす地体構造は、広域応力場やひずみ集中帯との関係で地体ごとに異なる挙動が予想される。この視点から本研究では、アムールプレート日本縁辺を北部 (北海道沖)、東部 (奥羽沖)、中部 (新潟-北陸沖)、西部 (敦賀湾)、南部 (山陰沖) に分け、沿岸陸域を含む地形・地質構造の類型ごとに、代表的な震源断層モデル検討する。

## 2. 研究の進捗状況

研究実施計画の中心をなす、類型海域毎の震源断層モデルの提唱準備の進捗は、概ね順調である。

## 3. 現在までの達成度

東北日本と西南日本の境界域であり、糸魚川-静岡構造線や富山トラフを境に東西で地形・地質の相違が明瞭な本州中部をひずみ集中帯が貫通している状況から、日本海形成期の古傷由来の下部地殻を含む基盤構造が現在のテクトニクスを制御しているとの作業仮説を提唱するに至った。

## 4. 今後の研究の推進方策

上記、「中部」を中心として本州全体の地震テクトニクスを概括する方向で研究を推進する。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3件)

- ① 竹内章, 北陸および信越地域における後期新生代の地質構造発達史, 地質学雑誌, **116**, 624-635 (2010). 査読有.
- ② 竹内章, 平松良造, 卜部厚志, 北陸の地体構造と地震・地震災害—これからの地

震防災に向けて—, 地盤工学会誌, **59**(2-637), 8-11 (2011). 査読有.

- ③ Duplex Stress Regime in the North Fossa Magna, Central Japan, Takeuchi, A, Bull. Earthq. Res. Inst., **83**, 1-8, 2008. 査読有.

[学会発表] (計 2件)

- ① 竹内章, 新潟-神戸歪集中帯のネオテクトニクス, 日本地質学会第 117 年学術大会 (富山大会).
- ② 竹内章, 北信越地質構造発達史. 日本地質学会第 117 年学術大会 (富山大会).

[図書] (計 1件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 1件)

名称：  
 発明者：  
 権利者：  
 種類：  
 番号：  
 出願年月日：  
 国内外の別：

○取得状況 (計 1件)

名称：  
 発明者：  
 権利者：  
 種類：  
 番号：  
 取得年月日：  
 国内外の別：

[その他]